

本大学の教育、研究および経営の質的向上に資する自律的で持続的な大学改革を推進するために、大学の理念に基づき、高等教育に関する研究および授業方法の企画・開発・普及促進とその実践を支援することを目的とし、2017年度は以下の事業を行った。

1) 高等教育研究

【計画】

- ・高等教育研究委員会における「全学教育のあるべき姿」の議論を踏まえ、「全学教育を担うべき組織論」に議論を発展させる。またこれまでの議論の結果を提言としてまとめたいうえで、関連する箇所に提案する。
- ・高等教育研究委員会の拡大版を年2回程度開催し、学内教職員が高等教育の課題について自由に議論できる場を設ける。また学外に開かれたシンポジウムを年1回以上開催する。

【実績】

- ・「早稲田大学における学術院組織のあるべき姿」の検討結果を教務担当理事に報告した。
- ・学内教職員対象には、「教育に関する懇談会～3つのポリシー改訂に向けた学術院内検討体制～」を開催し、学外シンポジウムとして「大学における教育データの利活用～実務と研究の観点から教育データを考える～」を開催した。

- 2017/5/16 第1回高等教育研究委員会 (2017年度研究課題方針)
- 2017/6/27 第2回高等教育研究委員会 (教育組織と研究組織の再編成について)
- 2017/7/25 第3回高等教育研究委員会 (ディスカッション)
- 2017/10/3 第4回高等教育研究委員会 (報告提案〈案〉について)
- 2017/11/21 第5回高等教育研究委員会 (報告書案ディスカッション、まとめ)
- 2018/3/27 第6回高等教育研究委員会 (次年度課題検討)

【総括】

高等教育委員会で「全学教育を担うべき組織論」の議論を発展させ、2017年度の研究課題として「早稲田大学における学術院組織のあるべき姿」について調査分析ならびに検討を進めた。また、本学の大学教育の質向上を図る活動として、「3つのポリシー改訂に向けた学術院内検討体制」をテーマに「教育に関する懇談会(2018/3/15)」を開催した。各学術院で喫緊の課題に対する実質的な議論や情報交換ができた。さらに、学外公開シンポジウム「大学における教育データの利活用(2017/9/13)」では、実践知をもつ多数の参加者とともに先駆的取組、データ活用課題の議論が行われた。

2) IR 機能の強化

【計画】

- ・早稲田大学における EM (Enrollment Management) IR の全体像を整理し、実現に向けたロードマップを策定する。
- ・IR 担当者連絡会において EMIR 実施のために必要なデータ収集・管理のための仕組み・体制整備に向けた調整を進める。
- ・EMIR 実施のために必要なデータ項目にもとづいた分析用のデータセットを整備する。
- ・分散型 IR 実施のための手引きを作成し、学内で共有する。
- ・IR に必要なデータ分析スキル習得のための研修を SD プログラムとして開発する。

(Waseda Vision 150 [核心戦略 12 関連](#))

【実績】

- ・理念的な EM (Enrollment Management) IR の全体像を IR 担当者連絡会にて整理した。
- ・分析用データセットを統合 DWH で行う委託を行ったが実現不可であった。
- ・分散型 IR 実施のための手引きを作成し、IR 担当者連絡会で共有した。
- ・IR に必要なデータ分析ツール (SAS) スキル入門デモデータ、研修資料「大学 IR 支援リファレンスマニュアル」を作成した。

【総括】

EM (Enrollment Management) IR の全体像の整理を行い、次年度取組として卒業生調査を行う方針を立て、準備を進める中で実習を通じた研修も行なった。分散型 IR では、各箇所報告にて情報共有を進め、他箇所の視点からのアドバイスをもらう機会として活用できた。調査計画実施とともに、総合的な分析には分析用データセット作成が大きな課題である。IR ツールである SAS スキル習得に向けた、「大学 IR 支援リファレンスマニュアル」入門編を作成でき活用を進める準備を進めた。分析目的・データ量・質に応じた分析ツールの活用方法に向けた有効的な活用方法を進めていく予定である。

3) 新たな教育手法の研究開発および普及促進

【計画】

- ・大総研研究プロジェクト (統計モジュール展開 PJ、リーダーシップ育成の研究・開発 PJ、反転授業に関する実証研究 PJ) について、研究計画に沿って進める。
- ・2016 年度に作成した「Active Learning Navi」等を活用し、Good Practice や Tips、具体的な活用事例を学内外に公開する。
- ・高度授業 TA の活用事例を共有し、より高度な教育手法の導入を促進する。
- ・シラバスシステムを授業の実態把握、成果測定ならびに情報発信のツールとして位置づけ、要件を整理する。
- ・課外活動 DB やポートフォリオと連動した新たな教育手法の開発について計画を策定す

る。

(Waseda Vision 150 核心戦略4 関連)

【実績】

- ・大総研研究プロジェクト（統計モジュール展開PJ、リーダーシップ育成の研究・開発PJ、反転授業に関する実証研究PJ）について、研究計画に沿って進め、2017年7月には、DCCフォーラム内にて、「大学総合研究センター設置プロジェクト報告会」を開催した。統計モジュール展開PJではCourse N@viで公開するコンテンツを作成し、学内利用に向けての広報チラシを準備している。反転授業に関する実証研究PJでは、国内外における反転授業の事例収集、定例ミーティングの開催、反転授業の効果検証、基礎的研究を進めた。
- ・高度授業TAコミュニティを開催し、高度授業TAに従事する学生のGood Practiceや従事する上での不安や悩みを共有し、個々の能力改善に努めた。
- ・学修ポートフォリオシステム「MyPortfolio」をリリースし、授業及び課外活動での活用を模索した。授業では、複数個所が興味を示し、初年次教育での活用について、継続して議論を交わしている。

【総括】

前年度に引き続き、ティーチングアワード、WASEDA e-Teaching Awardで表彰された教員の教育手法を中心にGood Practiceの普及に努めた。合わせて全学FDプログラム（オンデマンドコース）ならびに高度授業TA研修プログラム（オンデマンド、対面）の開発を進め、全学的なFD実施に向けた基盤を整えた。今後、各プログラムの評価を踏まえ、さらなるコンテンツの拡充やプログラムの充実化を図る予定。Faculty Caféは、昨年度から実施形態を変え、海外FD研修（ワシントン大学）との連動性を高める形で、研修を受けた教員が研修前、研修後での改善点を発表し、FDプログラム参加を希望する教員と一緒に議論を交わす形で定期的を開催し、FDプログラムの成果還元の間として機能させた。

4) 教育効果の測定と改善

【計画】

- ・学生授業アンケートの分析方法を見直す。
- ・学生授業アンケートの回答率向上に向け、システム変更も含め具体的な施策を検討する。
- ・高度授業TAの評価を実施する。
- ・学習データ分析（Learning Analytics）の要件を整理し、研究計画を策定する。
- ・学修行動、課外活動を振り返るツールとして学修ポートフォリオの活用を推進する。
- ・ジェネリックスキルテスト（PROG等）のトライアルを実施し、ポートフォリオとの連

携を視野に、導入可否（可の場合はその方式）を決定する。

【実績】

- ・ MyPortfolio をリリースし、授業及び課外活動での活用を模索した。課外活動では、キャリアセンター、ボランティアセンターなどで学生の振り返りを蓄積するコンテンツとしての利用を検討している。
- ・ 「MyPortfolio ガイドブック」を発行し、2018 年度新入生のほぼ全員に配布された。
- ・ 株式会社リアセックが提供する、ジェネリックスキル（汎用的能力）測定プログラム「PROG (Progress Report On Generic Skills)」の無料トライアルを実施。受検結果を分析し、本学での今後のジェネリックスキル（汎用的能力）測定プログラムの導入検討に活用した。

【総括】

- ・ MyPortfolio をリリースしたことで、様々な箇所での要望が提示された。一方で、学生自身が興味を持って利用するには、さらなる周知や仕掛けが必要となる。その仕掛けの一つとして、MyPortfolio 内でのジェネリックスキル（汎用的能力）測定プログラムの無料受検があり、その展開については今後の検討課題である。

5) 教育能力開発 (FD/SD) に関する事業の企画および推進

【計画】

- ・ 全学 FD コンテンツならびに高度授業 TA 教育プログラムについて拡充ならびに改善を進める。
- ・ 海外派遣型 FD プログラムについて、派遣前のアクティビティ、帰国後の継続した活動等も含めた体系化を進める。
- ・ 夏のワンデイ FD に代わる新規プログラムの開発を進める。
- ・ ティーチングコミュニティ「Faculty Café」について、英語版を実施する。
- ・ Faculty Café の Facebook ページを開設し、常時参加できない教員との情報共有の仕組みを構築する。
- ・ 優れた教育を実践した教員を顕彰し、その教育方法や創意工夫の普及展開を促進する目的でティーチングアワードならびに e-Teaching Award を実施する。ティーチングアワードは実施箇所の拡大、e-Teaching Award はエントリー数の増加を目指す。
- ・ 相互授業見学について受け入れ科目数の増加をはかりつつ、円滑な運営を実現するためのシステム・体制を整備する。
- ・ UW-Waseda ジョイントプログラムにおける FD プログラムの共同開発に向けた具体的なアクションプランを策定し、実行に移す。またラーニングアナリティクスに関する共同研究について計画を策定する。

(Waseda Vision 150 核心戦略 4 関連)

【実績】

- ・全学 FD コンテンツとして、東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センターが提供する動画配信サイト「PDPonline」を、全教職員に対する FD 研修コンテンツとして、また高度授業 TA 育成コンテンツとしてそれぞれ活用した。
- ・2017 年 3 月に収録した本学 FD コンテンツの英語版を 4 件公開した。
- ・UWFD プログラムの派遣前のオリエンテーションに続き、ワークショップを 4 回開催した。学習観の転換についての問題意識の共有、シラバス改編に向けて検討する項目について、当該ワークショップで議論を行った。
- ・UW のワンディ FD プログラムに代わるプログラムとして、オーストラリアのクィーンズランド大学を視察し、早稲田キャンパスにおけるプログラムの導入を決定した。
- ・英語版 Faculty Café を 2 回実施した（10/16 ならびに 11/13）。
- ・Faculty Café の Facebook ページを開設し、47 件のフォローがあった。FB ページ内において、開催案内・開催報告のみならず、英語版 Faculty Café の周知を目的として、英文での開催通知の発信を行った。
- ・ティーチングアワードは 2017 年度より会計研究科が新規に参画を開始し、合計 9 箇所で開催することとなった。また、2018 年度より新たに文学学院（文化構想学部、文学部、文学研究科）が参画することが承認されている。
- ・WASEDA e-Teaching Award は直近 3 カ年の中で最多のエントリー数（自薦他薦含む全 17 件）となり、大賞 1 件を含む 9 件が表彰対象となった。
- ・2017 年度の相互授業見学受入科目数は春学期・秋学期ともに各 200 件超となり、2016 年度のそれぞれ 28 件、4 件からの大幅増となった。

【総括】

全学 FD コンテンツの視聴実績は十分なものではなく、今後、コンテンツの拡充に加えて、教員が自主的に視聴するための仕掛けを検討していく必要がある。また、高度授業 TA 教育プログラムのオンデマンドコンテンツについては、今後は視聴した学生から提出されたアンケート結果を元に、視聴者側のニーズも踏まえてコンテンツの制作を進めていく。

6) 教育と学修内容の公開

【計画】

- ・Contents Creation Studio (旧 Waseda-net Commons) の活用促進をはかり、レジュメや教材等の公開コンテンツ拡充をはかる。
- ・MOOC (edX/JMOOC) コースの配信により国内外に本学の優れた教育内容をアピールするとともに、MOOC 用に制作したコンテンツの学内における活用を進める。
- ・大学体験 Web サイトの充実をはかり、受験生ならびに保護者などに向けた教育と学修

内容の公開を進める。

- ・「人間的力量の増進PJ」と連携し、ポートフォリオの利用促進をはかる。
- ・学生の学習成果発表の場として、オンラインプレゼンテーションコンペティション（Japan Korea Global Presentation Competition、Waseda Vision 150 Student Competition）を開催する。

（Waseda Vision 150 核心戦略3 関連）

【実績】

- ・2017年12月にContents Creation Studioの利用説明会を開催した（参加者16名）。また、教職員利用者に対して個別訪問を行い、利用上の悩み相談や利用用途の提案を行った。
- ・edXでは、過去に制作した2講座をSelf-pacedとして再配信し、それぞれ教員が担当する科目で利用できるよう支援を行った。また、新たに「Japanese Business Management」の講座を2018年3月30日にリリースした。
- ・2017年はMOOCの制作を学内公募制度に切り替え、6件の申請があった。このうち、2件を採択した。
- ・大学体験WEBサイトでは、所沢の紹介動画を中心に、引き続き箇所と連携しながらコンテンツ制作に取り組んだ。また、動画更新がない時期でも一定のアクセスを保てるよう、早稲田キャンパスの様子を中心に簡易動画を制作した。
- ・「人間的力量の増進PJ」ワーキングと連携し、MyPortfolioの利用促進を図った。具体的には、「早稲田大学入学案内（入学センター）」、「みらい設計ガイドブック（キャリアセンター）」、「キャンパスハンドブック（学生生活課）」でMyPortfolioを周知した。また、各箇所に所属しているスチューデント・ジョブ学生に試用してもらい、改善点や利用用途等の意見を提出してもらった。

【総括】

MyPortfolioのリリースについて、全学の会議体で周知を行い、学生にも「MyPortfolioガイドブック」の配布で認知度は格段に向上したと思われる。一方で、手軽に利用できるよう、運用面の整備や活用方法の提案は、次年度は計画的に推し進めていきたい。edXについては、制作中断や延期するケースが発生しているため、運用についての工夫が必要である。また、データ解析人材が売り手市場となっており、適切な人材獲得がより困難となっているため、DSセンターと協働するなど新たな打開策の検討を要する。

7) センターの諸活動、成果の社会への発信・広報

【計画】

- ・本センターの活動ならびに研究成果をWebサイト上で適宜発信する。
- ・SNS等を活用し、タイムリーな情報提供を行う。

- ・本センターの取り組みを広く学内外に発信することを目的としたフォーラム、シンポジウム等を開催する（DCC フォーラムとの共催を含め年間 9 回程度の開催を目指す）。
- ・本センターの設立後 3 年間の成果を総括し、公開する。

【実績】

- ・以下のとおり、センターの取り組みに関連する成果報告を行った。
 - 2017/ 4/28 第 1 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム「edX 報告会」
 - 2017/ 5/23 第 2 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム
「第 5 回 WASEDA e-Teaching Award 表彰式兼講演会」
 - 2017/ 7/25 第 3 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム
「大学総合研究センター設置プロジェクト報告会」
 - 2017/ 9/13 第 4 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム
「大学における教育データの利活用」
 - 2017/10/19 第 5 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム「学修ポートフォリオフォーラム」
 - 2017/11/10 第 6 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム「JKGPC スタディーツアー報告」
 - 2017/12/ 6 CTLT×DCC 産学交流特別フォーラム「ガートナージャパン日高社長講演」
 - 2018/ 1/30 第 7 回 CTLT×DCC 産学交流フォーラム
第 9 回「次世代 e-learning」公開フォーラム
 - 2018/ 3/19 「DCC2017 年度総会」
- ・大総研発行授業カレンダーのデザインリニューアルに伴い、「緊急用お知らせサイト」の説明および URL を日英併記で記載し配布した。
- ・授業カレンダーのクリアファイルを作成し、各箇所、新任教員セミナー、高度授業 TA 研修会などで配布した。
- ・CTLT のサービスを周知するため、新たに「CTLT ガイドブック（施設編）」を作成し、既存の（ICT ツール編）と共に新任教員セミナーをはじめ全教員を対象に配布した。
- ・本センターの広報用に統一したデザインテンプレート（羅針盤+大隈講堂）を、PPT スライド等に適用した。

【総括】

大総研所属教員による学会発表やメディア掲載等、センターの研究成果発信の機会は増えており、センターの公式 Web サイトや SNS（Facebook、QuonNet）などでも積極的に情報を公開してきた。結果として IR や学修ポートフォリオに関する取り組みなどは国内外他大学からの注目度が増し、情報照会や訪問要望等が増加しており、引き続き、学内外に向けての発信を活発に実施していく。

以 上